

令和4年度 神戸市人と猫との共生推進協議会 第2回定例会議録

1. 日時

令和4年11月8日(火)14:00～16:00

2. 場所

中央区文化センター1102 会議室

3. 出席者

名簿参照

4. 議事

【報告事項】

(1) 令和4年度野良猫繁殖制限事業実施状況および令和4年度(上半期)の傾向

- ・不妊手術数を当初事業計画の1,850匹から2,156匹に上方修正(寄附額増による)。予算の中で対応しているが、今後条件が揃えば増やしたい。
- ・新規は減少傾向、継続支援要望や情報提供地区の対応に当たっている。
→か所あたりの手術頭数は、多くても20匹程度に減ってきている。管理しているひとがいなくなった後で多くの猫が見つかる場合があるが、その場合、最初は猫ネットがTNRするが、その後は地域のひとに引き継いでやってもらっている。高齢化もあり、地域で管理することが理想である。(猫ネット)
- 毎月の事業部会でも1申請あたり10匹程度までが多い。地域当たりの頭数が減ってきていることが神戸の成功と言える。(獣医師会)
- ・月別では10～12月が多いように思われるが、意外と夏場の手術が多い。

(2) こうべ動物共生センターにおける譲渡会の開催

- ・今年度に入ってから、4月24日(日)と10月10日(月・祝)の2度、こうべ動物共生センターにおいて保護猫の譲渡会を実施した。特に2回目は、多くの方にご来場いただき好評であった。

【感謝状贈呈】

- ・株式会社フェリシモ様(篤志者感謝状授与規程による)

【連絡事項】

(1) 神戸市の条例の取り組み状況について

- ・条例の施行以降、繁殖制限を第一に取り組んできたが、市会から中期的目標の作成を求められている。国の定めた目標値である殺処分数平成30年度比50%はすでに達成しており、さらに50%減となる50頭以下を目指すこととしたい。これまでの取り組みにより、子猫の引取りは減少しているが成猫の引取りが増えている。譲渡への対応は進めているが、成猫の引取りが多くなると目標案の達成は難しい可能性もある。殺処分減少へ向け、今年から収容数も増えたので子猫のFIV陰転を待つ方針に変更した。
→すばらしい取り組みなので、もっとアピールした方がよい。教育委員会にも話をし、子供たちにも情報に触れてもらいたい。(猫ネット)
- ・地域猫活動団体の登録数が減少している。条例施行当時は、登録団体が管理する猫を優先的に繁殖制限

していたが、管理する猫の手術を一通り終えた団体には登録のメリットがない。

→猫にとって良い環境であれば人にとっていい環境であることを認識してもらうことが大事。団体の優良性を認定したり表彰するなど、プライドを持って活動できるような制度があると、猫の管理の質も上がるのではないかと。市民参加の部分なので、やってよかったと市民が思うようなことを考えてほしい。エサやり自体が良くないと言われていたところもあるので、神戸市が地域猫活動をもっと推進することで、活動しやすくなる。(Knots)

→神戸市の取り組みは評価されている。最後には猫が減ることが目標であり、TNRと地域猫を推進するとともに広報にもっと力を入れるべき。(猫ネット)

・協議会のHPに繁殖制限手術協力病院リストの掲載をしてほしいという要望がある。

→無料で手術してもらえると考える人がいるかもしれないので、そこを分かってもらえるような掲載方法であればいいのではないかと。

【主な意見等】

・多頭飼育者への飼い方指導を市からしてほしい。

→以前は猫が自由に外に出られる飼い方をしている事例が多かったが、最近は家の中で多くの猫を飼っている状況があり指導も難しい側面があるが、指導は継続していく。(市)

→飼い主が亡くなったあとに発見される場合もあり、譲渡されるまでの何日間か留め置ける場所も必要。新型コロナウイルス感染症関係で使用できなかった動物管理センターの使用も考えていただきたい。(猫ネット)

・スタート時は、何年かすると手術数が減るという予想だった。市境から引っ越してくる猫がいるのではと感じる。(会長)

→西区や北区だけが aumentandoしているわけではない。動物に国境はない。(猫ネット)

→対象が変わっている。多数の猫がいる地域から少数の地域への対応に移行してきているので、手術数としては変わらないが、頭数としては減っている。(獣医師会)

・横浜では毎年7000匹を継続して手術しているようだが、他所から持ってきているのか猫が減っていないようだ。

→管理票など、猫の管理を徹底してきた結果ではないかと。(市)

→捕まえて手術するだけでは絶対に減らない。管理と繁殖制限はセットで初めて効果が出る。(猫ネット)

→さくらネコの割合が7割で猫の増減なしというデータがある。最低でもそこを目指して続けていくことが大事。(Knots)

→70%ルールというものがあるが、実際やっていると70%では増えてくる。みんな努力してTNRしているが、街中ではまだまだ保護される猫が多い。多くの猫を保護している団体もあり、保護団体の把握も必要。(猫ネット)

・市民から神戸市への苦情はあるか、ノミや寄生虫など、公衆衛生上の問題はないのか。(会長)

→猫が嫌いな方もいるので苦情はなくなりますが、そういう方への啓発も続けていく。公衆衛生上の問題はあまり聞かない。(市)

→近所の野良猫についてだが、ノミや猫エイズは見られない。(獣医師会)

・以前は、UR等で自治会の同意が得られないケースがあった。そのような地域があれば、市に情報を集

約し、区役所などと共有して自治会へ協力を依頼してもらえないか。(会長)

→住宅の管理規約で飼育が禁止されていればエサやりはできないが、増やさないためにTNRは協力可能な地域もある。(市)

→東京都では、URは平成8年以降管理組合の規約に従うこととなっている。動物飼育は住民同士のトラブルの元なので管理側からすれば禁止したい気持ちは分かるが、管理組合への話の持って行きようでは飼育可能になる可能性はある。(会長)

・岡山県獣医師会では、高齢・病気等で飼えなくなった動物を保護して新しい飼い主を探す事業を去年からしている。協議会は譲渡会も実施したが、現在は手術が第一の目的である。いずれはTNRだけでなく、新たな飼い主探しやそれまでの預かりをしたり、高齢者の生きがいをづくりなどを実施すべき。犬の繁殖は6歳か6回までになったので、その引退犬を引き取って譲渡している方もいる。愛護団体の譲渡条件は厳しすぎる。(会長)

→譲渡の条件として、55歳以下や小学校5年生以下がいるとダメという条件も見られる。そういった猫ファーストという考えが出てきている。(猫ネット)

→協議会の中で、どのあたりまで枠を広げられるか事務局を中心に整理してから議論する必要がある。(Knots)

・猫の多頭飼育の届出はないのか。(会長)

→他都市で届出制度はあるが、届出しない方が崩壊するケースもあり、必ずしも機能しているとは言い難い。まだ始動したばかりだが、福祉部局と連携し、多頭飼育に至る前に早期に対応できるよう検討中である。(市)

→精神疾患がある方は、何度でも拾ってくる。崩壊に発展する前に、ケースワーカーなど各方面の専門家と協力し、慎重に対応するよう環境省は通知しているが予算が付かない。市もすべて対応できるわけではないと思うが、情報共有するなど、ひとつひとつの事例に対応していく必要がある。(会長)

・地域での同意が得られないために活動しにくい、という声を聞く。適切に管理していれば隠れることはないので、一般の方が堂々と活動できるように、協議会や神戸市からのさらなる支援をお願いしたい。また、市外の方から有馬温泉など市内の猫の相談が来ることもある。繁華街や観光地での野良猫の現状について、協議会で情報共有する方法を検討してほしい。(猫ネット)

→管理ができていない団体であれば、協議会のネームタグを作ってはどうか。

→長崎では、観光地でのんびりした猫を見て癒されることを宣伝した事例がある。観光地は、管理できている地域猫をアピールできる場でもある。(Knots)

・猫好きとそうでない人との乖離を感じる。子供のころに動物との触れ合いがないと、大人になって飼育するケースは少ない。学校飼育動物は様々な理由で撤退し、現在では飼育していてもメダカ等が多い。ペットも完全室内飼いが増えてきて、ますます子供が触れ合う機会がない。行政の出前授業でも、動物へのストレスや子供のアレルギーなどを考慮し、モデル犬の登場は減っている。ネスレは、VRで動物とのふれあいを体験してもらおうプログラムを開発し、大阪市、福島市および名古屋市で実施して好評であった。神戸市でも何かできたらと考えている。また、猫アレルギーは唾液に反応しているので、アレルギー物質を中和するフードを開発したので、猫アレルギーの方も猫を飼える可能性がある。(ネスレ)

・ペットの同行避難など災害時の対応についての講義等ができるので、今後はそういう方面にも力を入れたい。(あいおい)

- ・チラシなど広報物の配布について協力することができる。(連合自治会)

令和4年度 第2回定例会議出席者名簿

神戸市人と猫との共生推進協議会
敬称略

所属	職名	氏名
公益社団法人 神戸市獣医師会	会長	中島 克元
	会計理事	岸本 英一
	事業担当委員	橋本 裕規
NPO 法人 神戸猫ネット	理事長	杉野 千恵子
	副理事長	高野 稔
	事務局長	下村 美鈴
公益社団法人 Knots	理事長	冨永 佳与子
	事務局長	北村 美代子
株式会社 フェリシモ	生活雑貨事業部猫部G/キャラクターG 上席係長	小木 のり子
ネスレ日本株式会社	ネスレ ピュリナ ペットケア マーケティング統括部	内記 利宏
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 神戸支店	部支店スタッフ 担当次長	和田 由佳
	企画営業課	前田 百合江
神戸市自治会連絡協議会	副会長	新渡戸 素

欠席

公益社団法人 日本動物福祉協会		
一般社団法人神戸市婦人団体協議会		
神戸市商店街連合会		
株式会社 神戸新聞社		

規約第5条第4項に基づく出席者

神戸市	健康局 生活衛生担当部長	丸尾 登
	健康局 動物衛生担当課長	玉寄 一彦
	健康局環境衛生課動物衛生担当係長	今田 吉隆